

科目名称：	保育者・教職入門	
担当者名：	改田陽子	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>昨今、子どもを取り巻く環境や家庭の在り方の変化により、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）に求められる役割や責務は多様化、高度化している。この授業では、保育者の制度的位置付けや倫理、子どもが健全に育つ環境や地域社会全体を視座に入れた、保育者の役割・資質・専門性について学ぶ。その学びを通して、これから保育者になるにあたっての自らの課題を認識し、保育者としての意欲や自覚を養う。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①保育者の役割や倫理・制度的な位置付けを理解する。②保育者の専門性や専門職的成長について考察し、理解する。 ③保育者の協働について理解する。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)			70	30	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》幼稚園教諭	《経験年数1》15年
	《内容2》幼稚園園長	《経験年数2》19年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
人間性	自分について理解し、課題に良く向き合い、最期まで成し遂げることができる。	自分について理解し、課題に向き合い、最期まで成し遂げる努力をする。	自分について理解し、課題に向き合うことはできる。	自分について理解しようとせず、課題にも向き合わない。
社会性	保育・幼児教育を取りまく様々な課題に対して興味関心を持ち、聞いたことや学んだことを表現することができる。	保育・幼児教育を取りまく様々な課題に対して、興味関心を持つ努力をし、聞いたことや学んだことを表現しようとする。	保育・幼児教育を取りまく様々な課題に対して、あまり興味関心を持たず、聞いたことや学んだことを振り返らない。	保育・幼児教育を取りまく様々な課題に対して、全く興味関心を持たず、聞いたり学ぶこともしない。
専門性	保育としての責務と倫理についてしっかり理解し、その場に応じた、柔軟な対応ができる。	保育としての責務と倫理について理解し、その場に応じた、柔軟な対応ができることもある。	保育としての責務と倫理について理解しようとし、その場に応じた、柔軟な対応しようとする。	保育としての責務と倫理について理解せず、その場に応じた、柔軟な対応もしない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育者とはどういう人のことか、仕事の本質や特質、大切にしたい原理、原則を考える。	シラバスを理解し、教科書1～19pを読んでおく。	30分
第2回 幼稚園免許と保育士資格について学ぶ。クイズ形式で問う。パーソナルポートフォリオ作成開始。	教科書22～34pを読んでおく。	30分
第3回 幼稚園教諭や保育士の一日の仕事を知る。特に、子どもに寄り添うことで子どもが育つとはどんなことか、学ぶ。(グループワーク)	教科書35～74pを読んでおく。	30分
第4回 子どもの内面や発達を理解する保育者について学ぶ。事例を通して、子どもが保育者に信頼を寄せる基盤作りの不可欠さを学ぶ。	教科書75～92pを読んでおく。	30分
第5回 遊びを援助する保育者について学ぶ。子どもの遊びをどう理解するか、環境構成や教材研究を学ぶ。	教科書93～110pを読んでおく。	30分
第6回 教材研究や「子どもになってみること」の重要性を学ぶ。絵本の読み聞かせの実技。	教科書167～181pを読んでおく。泥団子を作ってくる。絵本を1冊持参する。	120分
第7回 手作り絵本の読み聞かせの実技。保育環境を構成する保育者について学ぶ。	手作り絵本を持参する。教科書183～189pを読んでおく。	120分
第8回 個と集団を生かすことができる保育者になるための「子ども理解」について学ぶ。	教科書111～130pを読んでおく。	30分
第9回 保育を展開し評価する保育者として、保育の計画・実践・査察について学ぶ。	教育要領・保育指針の指定ページを読み、指導計画及び評価について把握しておく。	30分
第10回 事例を通して、保護者や家庭との連携について学ぶ。(グループワーク)	教科書131～148pを読んでおく。	30分
第11回 事例を通して、地域社会や小学校との連携接続について学ぶ。	教育要領・保育指針の指定ページを読み、小学校との連携・接続を調べておく。	30分
第12回 子どもたちの背景にある多様な要因や、多様性を生かす保育について学ぶ。	教科書149～165pを読み、多様な子どもについて調べておく。	30分
第13回 保育者にとっての同僚性とは何か、その重要性や、成長し続ける必要性を学ぶ。	教科書192～206pを読んでおく。	30分
第14回 専門家として求められる資質や能力について理解し、学び育ち、成長しあう保育者となることの必要性を学ぶ。	教科書207～225pを読み、なりたい保育者像を考えてくる。	40分
第15回 授業の振り返りと、なりたい保育者像の発表と自覚。	これまでの復習をし、なりたい保育者像の原稿を完成して持参する。	90分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。全ての授業に、ITCを使用する。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業内の課題レポート70%、授業への積極的関与30%

課題に対するフィードバック

授業内の課題レポートは評価後、返却する。

教科書・参考書

教科書：「保育者論」(大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸) ミネルヴァ書房 毎回の授業で使用する。
参考資料：幼稚園教育要領・保育所指針・認定こども園教育保育要領